

研究発表もうしこみフォーム

氏名：渡邊三津子*、小長谷有紀、Christopher McCarthy、堀田あゆみ、八尾廣、滝口良、山中典和

氏名のローマ字表記：Mitsuko Watanabe, Yuki Konagaya, Christopher McCarthy, Ayumi Hotta, Hiroshi Yatsuo, Ryo Takiguchi, Norikazu Yamanaka

所属：*文教大学 国際学部

専門分野：*地理学、地域研究

発表のタイトル：リピート写真撮影に基づくウランバートルの約 100 年間の景観変化検証の試み

発表要旨（600 字～800 字程度）：

近年、デジタル化技術の向上により、高解像度かつ鮮明な画像として古い写真資料を保存すること、インターネット技術の普及により、アーカイブに収録された資料が全世界から閲覧可能になった。景観研究における古写真利用という観点からは、それまで撮影者や所有者が属する国・地域の所蔵者・所蔵機関ごとに個別に収録されていた写真資料に対し、地理的制約を超えて容易にアクセスすることが可能となったことの意義は大きい。

ある写真が撮影された場所を再訪し、被写体や景観を、同じ地点から、同じ方向、同じ角度で、異なった時期・時間に撮影することをリピート写真撮影（repeat photography）という。リピート写真撮影により作成された新旧比較写真は、景観の変化を視覚的に示すことができるため、景観研究のツールとして有用である。

本研究では、19 世紀末から 20 世紀中葉にかけて、モンゴル国ウランバートルで撮影された古写真を収録する複数のデジタル・アーカイブを、網羅的・横断的に利用し、衛星画像や地図・古地図の比較判読や現地調査により、古写真の撮影場所を厳密に同定した上で、リピート写真撮影を実施し、約 100 年間の景観変化を検証しようとしている。

発表においては、2022 年 8 月に実施した現地調査で作成した新旧比較写真のデータセットを示しながら、リピート写真撮影による景観研究の可能性について議論する。